



決勝レポート

2019/7/14 Rd-4 富士スピードウェイ

天候：雨 気温：20℃ 出走台数：20台

観客数：13日(土)10,200人 14日(日)15,300人 合計25,500人

霧雨で迎えた早朝の富士スピードウェイ。スタート進行前に雨が上がり、路面コンディションはウェットながら、決勝スタートすれば徐々にドライへ変わっていくのか？それともまた雨が降って路面を濡らすのか？チームは、ぎりぎりまで考えるすべてのオプションを準備してスタートに備えた。スターティンググリッド上に車を並べると同時に雨が降り始め、路面はフルウェット。雨量が多く、セーフティカー先導スタートとなった。

9番手スタートの山本選手はポジション維持、12番手スタートの福住選手は1ポジションアップの11番手でオープニングラップを周回した。

中団グループの中で、4台による8位争いを繰り広げていた山本選手は、15周目のGRスープラコーナで痛恨のスピン。12番手にポジションを落としてしまう。

福住選手はレース折返しの20周目ごろから、4～5台による激しい8位入賞圏争いが続く。前車が巻上げるウォータースクリーンで視界も限られる中、コース上のあらゆる場所でオーバーテイクを仕掛けるも、本来の周回数55周に到達する前に制限時間(95分間)迎えてしまい、53周目がこのレースの最終ラップに。山本選手はその後一つポジションを上げ11位でフィニッシュ。福住選手は9位で、ポイント獲得には至らなかった。

1：山本選手 11位 (HONDA 勢5位)

雨の中、なかなかペースを上げられず、さらに自分のミスでコースアウトしてしまいポジションを落とすことになり、ポイントを獲得することができませんでした。

路面コンディションの安定しない状況下でパフォーマンスを発揮できない状態の改善が課題ですね。ノーポイントに終わってしまったことは、選手権を考えると痛いところですが、ランキング首位は維持していますので、仕切りのおす気持ちで次戦もてぎまでの時間を有効に使い、集中して準備します。

5：福住選手 9位 (HONDA 勢3位)

予想以上に雨の強いレースになり、ウォータースクリーンで前が見えず難しいレースでした。そんな中でも、何度かコースアウトなどもしながらも8位争いに全力を尽くしましたが、実力が足りずポイント逃してしまう結果となりました。

ライバルと競合う中で、強雨時のドライビングや、セットアップの足りない部分などが色々と理解できましたので、山本選手のデータも含めてチームで分析し、問題点を解消できるよう準備して、次戦茂木に臨みます。